

## (2) 知事あいさつ

皆さん。こんにちは。

今日は、農業大学校の皆さん、参加をさせていただいてありがとうございます。

私は、毎年農業大学校の皆さんと意見交換させていただいています。去年までは知事公邸で意見交換をさせていただいていて、本当に若い、これから農業をやっていこうというお気持ちを持っている皆さんのいろんな思いを聞かせていただいて、大変勉強になりました。

今、高知県では、産業振興計画を全力で実施しております。高知県の経済をどうやって元気にしていくかということです。高知県の経済がどうして厳しいのかというと、これは本当に難しい課題です。平成2年以来人口がずっと減り続け、84万人いた人口が77万人まで減ってしまった。さらには、仕事をしている年齢の若い世代の人達の人数が、どんどん減っています。

ということは、稼げる給料のトータルの金額というのが小さくなるということの意味し、結果として県内の市場規模、マーケットの規模というのは、どんどん小さくなっています。

高知県で一番物が売れていたのは平成9年でした。この時は2兆円。平成19年が一番新しいデータになりますが、1兆6千億円しか売れていません。2兆円から1兆6千億円まで、2割も少なくなっています。それぐらい高知県の経済規模というのは、小さくなっているということです。足元の経済規模がどんどん小さくなっている、縮んでいるというのが今の本県の実態です。

だから、何をしなければならないのかというと、外からお金を稼いで来るということです。田舎だから閉じこもってはいけない。田舎だから外に打って出て行かなければいけないと、そのように思っているところです。ゆえに地産外商が必要だといつも申し上げて、これを旗頭にして産業振興計画を実行しようとしているところです。

外に打って出て行く時には、どうすればいいのでしょうか。いろんなことがありますが、単に弱いところを補うという発想だけではだめです。むしろ、自分の持っている強みというのを最大限、発揮するようにしなければいけないと思います。皆さんがしているスポーツでも何でもそうだと思うし、日ごろの人間関係でも、勉強でも学業でも何でもそうだと思いますが、自分の持ち味を生かすということが非常に重要だと思います。

高知県の経済にとって持ち味とは何か。これは間違いのないことでありますけれども、一次産業が強い、農業が強いということです。これが高知県の経済が持っている持ち味です。これを生かして行って地産外商、外から外貨を稼げる。そういう経済体質をつくっていかねばなりません。

多くの皆さんが勉強されたと思いますが、高知県の園芸農業の土地当たりの生産性はずば抜けて高い、全国第1番です。畜産だって量は少ないけれども良い品物がとれる。売り込みに行ったら非常に良い成果をあげることができる。これは土地が狭いということがあって、先輩達が一生懸命努力をされた結果、園芸農業というものを生み出していったわけ

です。皆さんは、その伝統を一生懸命学んでおられるわけです。これから皆さんは、この高知県の強みをしっかりと引き継いでいただきたいと思います。ただ、恐らく、それだけではこれからは足りないでしょう。

野菜の生産量全国第1位は千葉県です。2番は茨城県。3番から5番の間に必ず埼玉県が入ります。要するに昔は高知県が築き上げてきたこの園芸農業、この強みというのをだんだん他の県も真似するようになってきました。強みがあっても、単にいつまでもしがみついているだけでは、他の人に追いつかれてしまってだめで、新しい強みというのを作り出していかなければならないと、思っています。

園芸作物にしても、安全安心ということを徹底して追及していく、環境保全型農業というのを徹底的に追及していくことで質を上げていく。さらには日本で一番というのを目指すためにも世界の一番の国と手を取り合っていこうじゃないかと、オランダのウェストラント市との協定を結んで、お互い留学に行ったり、さらに来週にはウェストラント市の市長が（高知県に）おいでになり、相互の交流をしようとしています。環境保全型農業の世界一番の国と我々高知県はしっかりと手を結んでお互いに勉強していくことでもって、少なくとも日本一にはなかってやろうと今、目指しているわけです。

売り方にしても、上手な高知県になっていきたいと思っています。今、盛んにアンテナショップのことなどいろいろ報道されていますが、アンテナショップに限らず、地産外商公社というのを設けて官民協働で売り込みを図ろうと一生懸命やっています。龍馬ブームのお陰もあって、そういう機会は広がっていているところです。

そしてもうひとつは、皆さんがいろいろ作られている一次産品。これに関連した産業を育てていくことも重要です。食品加工の分野とか、それはいまや観光に生きるようなそういう時代にもなってきている。ドーンと一次産業の強みがあって、その関連産業が、裾野が広がっていくような、富士山のような形の産業構造というのをつくっていくということが是非とも重要です。

要するに、今から農家というのは、いろんなことにチャレンジしていく。作るものの技術を極める、販売の技術を学んでいく、関連産業を育成していく。いろんなことをやっていかなければならないと、思っています。これから農業をやるということは、先端的なビジネスをやるということです。私はいつも、これからの農業は格好いい農業なんだと言っています。

また、食糧自給率向上ということは今、国も真剣に言い始めました。インドと中国が豊かになってきた。昔は自転車で通勤していたのが、全部車に乗るようになったらどうなるか。だから、石油価格は上がってるんですね。食糧だって同じことが起こってきます。自国の食糧は自国で確保するということを目指していかないと、20年後30年後、日本は大変なことになるかもしれない。そのためにも、一次産業というのは今、追い風が吹いている産業でもあります。追い風が吹いている中で格好いいビジネスをやっていく。そういう若い農業者の皆さんが、これからどんどん育っていただきたいと、本当に心か

ら私達、県のスタッフは思っているところです。

幸いにして、就農者の皆さんが、最近段々増えてきまして、一昨年ぐらいまで毎年110人くらいでしたが、今年は197人の方が農業に就いていただくようになりました。昭和56年に統計をとり始めてから、一番多い数字です。農業というものに世の中の目が向いてきた。日本全体としては、健全なことだと僕は思うし、そうあるべきだと思いますけど、これは即ち皆さんにとっても大いに世の中の追い風が吹いているということだと思っています。

是非、皆さん、この農業大学校、日本でも最高レベルの技術を教えてくれる学校でもありますし、素晴らしい諸先輩方もいる学校であります。この学校で一生懸命勉強をして頑張ってください、そのように思っております。

学生の皆さんからご意見をおうかがいしますが、日ごろの活動とかからいろいろ教えていただければ、私もまたいろんな事に気付かせていただくんじゃないかなと思っています。どうぞよろしくお願いします。